



ちやこがいた夏

hiroyuki_chaco



ちやこがいた夏

hiroyuki_chaco

ちやこがいた夏

第1章：再会の夏

第一節：突然の訪問

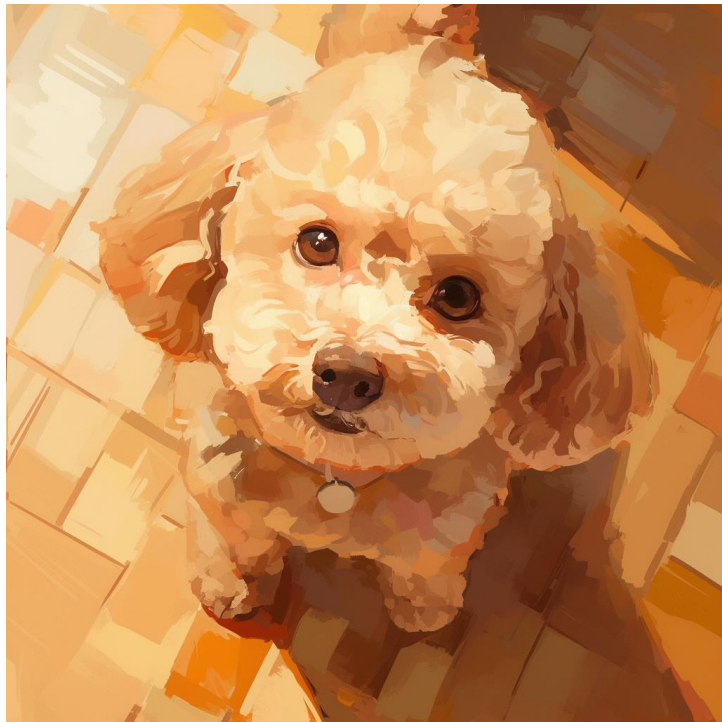
それは、ひどく暑い夏の日だった。僕は汗だくでアパートのドアを開け、何気なく部屋の中へ足を踏み入れた。玄関のマットの上に座っている小さな影に気づいたのは、その瞬間だった。

半年前に亡くなったはずのちやこがそこにいた。

「ちやこ？」僕は呆然と立ち尽くし、声にならない声でつぶやいた。

ちやこは優しく尻尾を振りながら、僕を見上げた。まるで、ずっと前からそこにいたかのように。

「また会いたくなっただよ、お兄ちゃん」と、ちやこが言った。



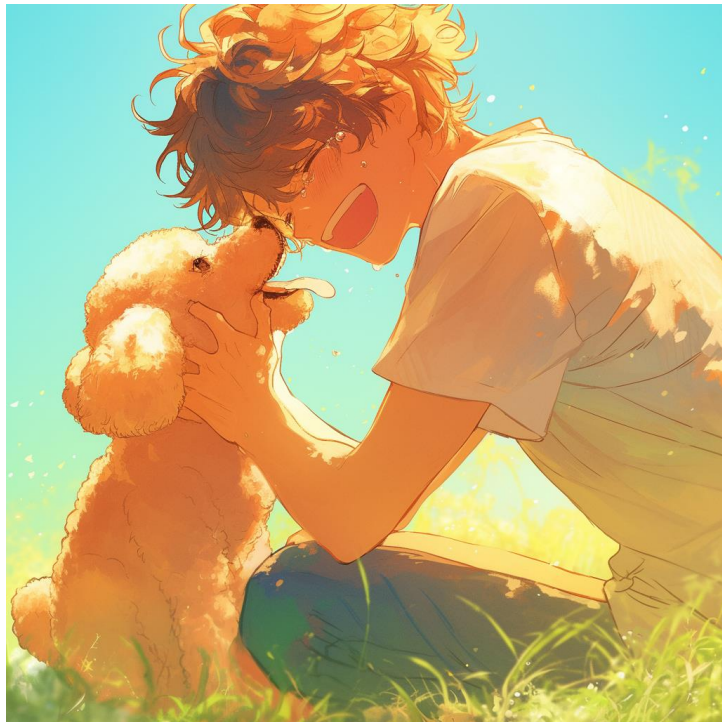
第二節：喜びの涙

現実と夢の境界が曖昧になる感覚の中で、僕はちゃこを抱きしめた。

彼女の温もりが僕の腕に伝わり、涙が止めどなく流れ出た。

「ちゃこ、本当に戻ってきてくれてありがとう」と僕は言った。

ちゃこは僕の頬を舐め、まるで昔の日々が戻ってきたようだった。



第三節：楽しい日々の再来

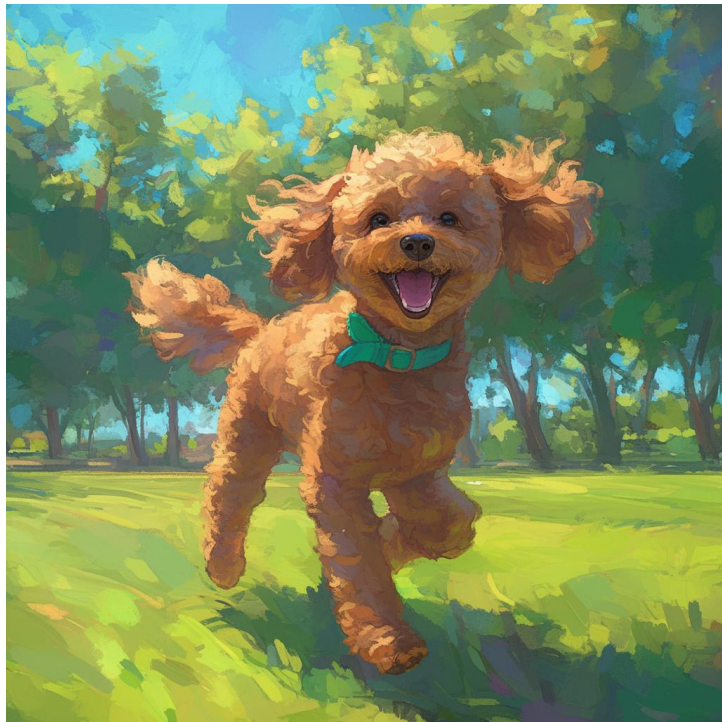
ちゃこと過ごす日々は、まるで時間が巻き戻ったかのようだった。

毎朝、僕たちは近くの公園へ散歩に出かけた。

木々の間を歩くと、ちゃこはまるで新しい発見を楽しむ子供のように駆け回った。

「毎日が夢みたいだよ、ちゃこ」と僕は言った。

「私も同じ気持ち。お兄ちゃんと過ごす時間が一番幸せだから」とちゃこは答えた。





ためしよみ

は

ここまでです